



ひなどい

【教育目標】

なかよく せいっぱい
遊ぶ子ども

第11号

令和8年2月4日
新潟市立新津第三幼稚園だより

子どもが育ち合う、異年齢保育

園長 大矢 晃子

当園が満3歳児入園を実施してから3年目になりました。満3歳児は、3歳の誕生日を迎えると入園できる制度です。今年度は、5月から11月までの間に4名の入園がありました。園では、年少組の子どもたちと一緒に同じ保育室で過ごすため、異年齢保育を行っています。今年度の園の教育ビジョンにもあるように、幼児教育の充実を目指して取り組んできた1つに満3歳児と3歳児との異年齢保育があります。幼児期の発達は、年齢による差が大きいため、同じ保育室で保育を行うためには、きめ細やかな配慮が必要です。

年少組では、一人一人の発達段階を踏まえ、互いが育ち合う保育を工夫してきました。

3歳児と満3歳児のエピソード <ガソリンを入れて出発！> 12月

積み木で電車やバスなど乗り物に見立てて遊んでいます。ガソリンスタンドにはガソリンを入れるホースもついています。3歳児A児の真似をして、満3歳児B児C児D児が遊び始めました。

B児たちの興味は、ホースです。



やりたい！

あ〜取れちゃった〜

何度、ホースを修理してもらっても、B児たちは、ホースを持ちたくて、とうとう取り合いになってしまいました。



直せるよ〜

先生「〇〇ちゃんもやりたかったの？〇〇ちゃんもね、〇〇ちゃんもだね…、どうしたらいいかなあ…？」

「一緒にやれば
いいよー」

<その後…>ホースを一緒に持てるように、長さは長い方がいいということで、教師は用意していた巻いた新聞紙をつなぎました。すると、子どもたちは、また友達と一緒に嬉しそうに遊び出しました。

何か困ったことが起きたことを感じた3歳児たちが、心配そうに集まってきました。先生がそれぞれの「やりたい」思いを受け止め、どうしたらいいかをみんなに投げかけました。すると、子どもたちは思い思いに解決策を考え始めました。



このように、教師は一人一人のやりたいことを受け止め、困った時の折り合いの付け方や友達との関わり方などを丁寧に教え、育んでいます。同じような遊びをしていても、発達段階から考えると年齢によって興味・関心や技能などの違いがあります。教師は、それぞれの発達に合わせて、経験して欲しいことを見極め、日々の保育を工夫しながら進めています。子どもたちは、園で友達や先生と関わり、たくさんのことを学んでいるのです。3学期も残りわずかになってきました。進級、進学に向けて子どもたちがよりよい経験ができるよう、充実した日々を過ごしていきたいと思えます。

2月3日 節分の豆まきを
しました



年長あやめ組が作っ
た鬼たちです



たんぼぼ・いちご組、もも組もお面を作りました



おには～そと
ふくは～うち



1月14日 年長あやめ組がお茶会を体験しました。

今年もお茶の先生をお招きして、「お茶会」を体験しました。歩き方や、座り方などお茶の作法を教えてください、甘いお菓子を一口、そしてお抹茶をいただきました。いつもより濃い味のお茶を味わい、和やかで、静かなひとときを過ごしました。

